

2025年度 SSI（総探）

【第21回】 各自の研究活動

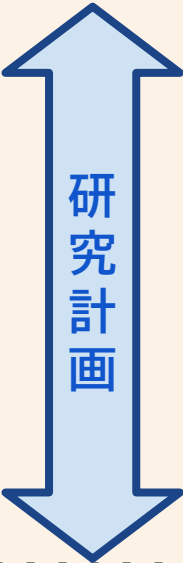
2025年12月18日（木）



チーム編成後の流れ

まずは研究計画を立て、「**研究計画書兼報告書**」にまとめる。

1. チームで**研究テーマ**を設定する。
2. **研究テーマ**に関する先行研究を調べ、「**問い**」を立てる。
3. 「**問い**」をもとに、**リサーチクエスション**を立てる。
4. **リサーチクエスション**に対して「**仮説**」を立てる。
5. **仮説**検証のための調査方法を検討し、計画する。
6. 調査を実施して、**仮説**を検証する。
7. 調査結果をもとに分析・検討・考察し、まとめる。

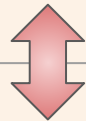


研究計画

研究報告

これからの予定（各回のおおよその目標）

12月11日(木) 6限	リサーチクエスチョンの導出→明確化	
12月18日(木) 6限	仮説を立てる	概要説明
1月 8日(木) 6限	↓	スライド準備
1月29日(木) 6限	仮説の検証方法の検討	↓
2月 5日(木) 6限	↓	↓ 要項発表
2月12日(木) 6限	研究計画書の整理	スライドの完成
2月19日(木) 6限	中間発表の準備	リハーサル
2月26日(木) 5・6限	専門的課題研究中間発表会	



専門的課題研究中間発表会 (2/26)

今年度の課題研究の集大成！

次年度に向けて研究の質を高めよう！

1チーム 発表：5分 質疑応答：なし

発表内容

研究計画書
(1)-(4)部分

- 研究テーマの説明 分かりやすく！
- 研究背景（研究動機や先行研究）
- リサーチクエスチョン 明確に！
- 仮説と検証方法 論理的に！

高校46期 SS I・II (総合探究)		研究計画書兼報告書	
チーム番号		研究者氏名	
※チームメンバー全員の氏名を記入			
具体的な研究手法の計画・実施・まとめを記録するシートです。一つの研究計画の実施が終わったあとで、さらに新しい研究計画を実施する場合には、その都度、このシートに記入します。			
(1) 研究テーマ			
(2) 研究背景 (研究動機やテーマについての先行研究、一般的な理解など)			
(3) 研究目的			
①リサーチクエスチョン			
②リサーチクエスチョンの意義			
(4) 研究手法 (『課題研究メソッド2nd Ed.』p.73-95参照)			
①研究手法の種類 当てはまるものを選択			
☐ ①			
②具体的な			
※文献調査の場合 インタビュー の、③実施手順			

発表準備 スライド作成・発表原稿準備

タイトルスライドを入れて**4**枚以上で作成。デザインは自由。

1

課題研究メソッド p.142-144 ①

プレ研究計画書兼報告書 (1) 研究テーマ

生成AIの社会的課題 テーマ

チーム番号: 920 チーム番号

全員の 組番号 + 氏名 メンバー

この3つを必ず入れる

研究テーマについて、**分かりやすく**説明する。

2

課題研究メソッド p.142-144 ③

プレ研究計画書兼報告書 (2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。
- 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する。
- これまでどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

リサーチエスションの背景や仮説の根拠となっている事実を述べる。

3

課題研究メソッド p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書 (3) ① リサーチエスション (3) ② リサーチエスションの整理

リサーチエスション

- 研究に取り組んだリサーチエスションの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- この研究で考えられる社会や学術への貢献、社会的な意義を述べることで、聴衆の注目をより集めることができる。
- プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

何がまだ答えの明らかになっていないことなのか、自分たちが何を解決したいのかを**明確に**説明する。

4

課題研究メソッド p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書 (3) ③ 仮説

仮説と検証方法

- リサーチエスションに対し、自分たちの設定した「仮説」(予想される仮の答え)をどのように設定したのかを説明する。
- 先行研究・事例から根拠を持って仮説を示すことが大事である。
- できるだけ複数の仮説を設定する。
- どのような研究方法を用いてリサーチエスションの解決に挑むのか、具体的に述べる。
具体的でない例: 「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」

仮説の根拠を現在明らかになっている事実をもとに、**論理的に**説明する。

今回の中間発表会の重点目標

観点/SSコンピテンシー	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
1. 構成の論理的一貫性 批判的思考力 表現力	目的から考察まで論理的に固く結びつき、一貫したストーリーを構成	全体の流れは明確だが、一部に論理の繋がりが弱い箇所がある	必要な要素は含むが、関係性の説明が不足し構成が断片的	各要素が点在し、論理的な構成がなく全体像を掴めない
2. 課題の背景と意義への理解 未知への好奇心 社会に関かれた姿勢	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的に考察できる	意義は説明できるが、自身の問いと課題との繋がりが弱い	意義の説明が抽象的で、なぜ自らが取り組むべきかが不明確	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
3. 問いと仮説の適切性 仮説構築力	先行研究に基き、独自の問いと仮説を構築し、検証可能な仮説を設定	先行研究と仮説には課題のつながりがあるが、検証が不明確	問いと仮説のつながりが不明確	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
4. 研究方法の妥当性 手続的知識 情報活用能力	最適な方法を比較検討し選択、手順を具体的かつ明確に説明	適した方法を選択できるが、選択理由の吟味が不十分	方法は示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	方法が仮説検証に繋がらず、信頼できるデータを得られない
5. 結果の解釈と考察の妥当性 批判的思考力 メタ認知能力	複数視点で客観的に分析し、研究の課題と今後の展望まで言及	論理的な考察はできるが解釈が一面的で、課題の分析に至らず	結果の説明はできるが考察不足で、単なる結果報告に留まる	結果と意見が混同し、客観的事実に基づく考察がない
6. 発表の明瞭性 表現力	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
7. 視覚的表現のデザイン性 表現力 情報活用能力	図表・配色点を強調し、視覚的に分かりやすく伝える	図表・配色は基本的な要素は揃っているが、視覚的な工夫が足りない	図表・配色は基本的な要素は揃っているが、視覚的な工夫が足りない	文字中心の構成で視覚的な工夫がなく、理解を妨げている
8. 質疑応答における対話力 批判的思考力 協働する力	質問意図を汲み取り、客観的に捉え直し根拠をもって応答	質問を理解し考えを答えるが、データとの関連付けが弱い	質問意図を正確に理解できず、一般的な意見での回答に終始	感情的応答や「分かりません」のみで、対話を深めない

研究計画書(1)-(4)部分

プレゼンテーション技術

研究の
途中経過の
自己点検

発表
スキル
向上

冬休みの宿題



で論文検索

A Survey on Human-AI Collaboration with Large Foundation Models

VANSHIKA VATS*, MARZIA BINTA NIZAM*, MINGHAO LIU, ZIYUAN WANG†, RICHARD HO†, MOHNISH SAI PRASAD†, VINCENT TITTERTON†, SAI VENKAT MALREDDY†, RIYA AGGARWAL†, YANWEN XU†, LEI DING†, JAY MEHTA†, NATHAN GRINNELL†, LI LIU†, SIJIA ZHONG†, DEVANATHAN NALLUR GANDAMANI†, XINYI TANG†, ROHAN GHOSALKAR†, CELESTE SHEN†, RACHEL SHEN†, NAFISA HUSSAIN†, KESAV RAVICHANDRAN†, and JAMES DAVIS, University of California, Santa Cruz, USA

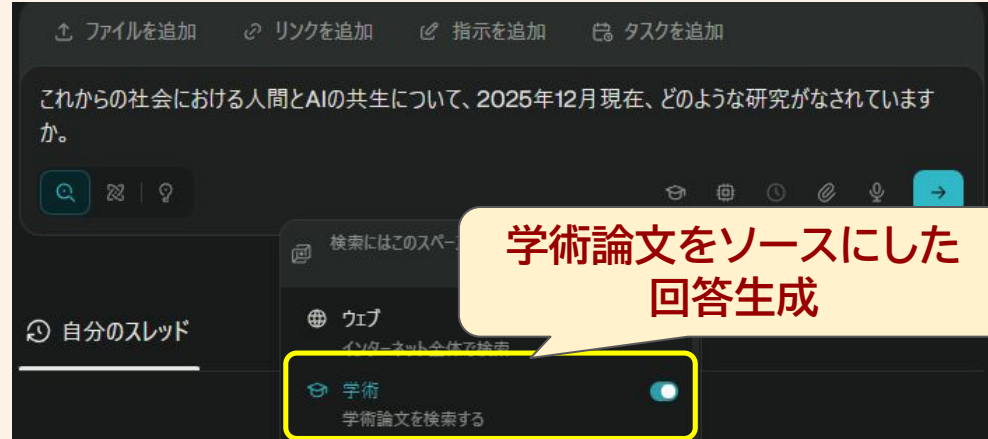


で要約

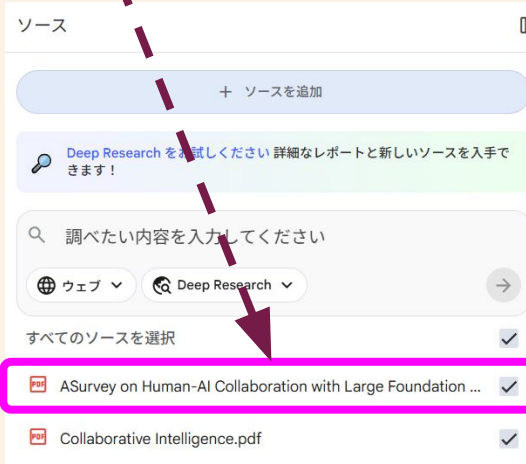
Architecting Human-AI Partnerships with Foundation Models

1 ソース

この学術的な調査論文は、大規模基盤モデル（LFM）を組み込んだ人間とAIの協調（HAIコラボレーション）の不可欠な側面を検証しています。LFMは膨大なデータを利用して前例のない能力を提供しますが、責任ある実現には、安全性、公平性、制御に関する持続的な課題への対処が必要であると指摘されています。分析は、人間主導のモデル開発、協調的な設計原則、倫理的およびガバナンスの枠組み、そして応用分野という四つの主要な領域



学術論文をソースにした
回答生成



概要説明資料作成

「探究ノート」 活動記録①の記入

Classroom 「【全般】 探究ノート」

高校45期 SS I (総合探究)		探究ノート					
チーム番号		クラス	1 -	番号		氏名	
共同研究者							

↑ チームメンバー全員の組番号と氏名を記載（例：640 芝浦 太郎 40 柏 花子）

【日々の活動記録】（①を授業開始時に、②③を授業終了時に記入）

日付	活動記録 ①今日の予定・目標 ②本日の活動内容 ③次に行うこと、次までに行うこと
11/5	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと
11/12	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと
	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと

（ 右クリック → + 下に行を挿入 を選択して行を追加してください ）

★作成のポイント★

毎回、**活動記録**は必ず書く！

①今日の予定・目標

授業開始時

②本日の活動内容

授業終了
5分前

③次に行うこと

個人でまとめるワークシートで、
その他の使い方は自由です。